

情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU 部会

放送業務委員会（第 32 回）議事概要（案）

日時：平成 31 年 3 月 13 日（水）10:00～11:40

場所：総務省 10 階 共用 1001 会議室

出席者：

都竹主査（名城大学）、伊丹主査代理（東京理科大学）、
大谷専門委員（東芝インフラシステムズ）、川口専門委員（テレビ朝日）、
中村専門委員（NHK）、西田専門委員（NHK）、日野専門委員（TBS テレビ）、
廣野専門委員（フジテレビ）、松井専門委員（ARIB）、吉野専門委員（NTT）

関係者：

熊田氏（放送業務 WG 構成員）、薮氏（NHK）

事務局：

総務省 情報流通行政局 放送技術課

柳島課長、木村技術企画官、佐々木課長補佐、谷田係長、樋口官

【配布資料一覧】

資料 放-32-1	放送業務委員会（第 31 回）議事概要（案）
資料 放-32-2	2019 年 3-4 月 ITU-R SG6 関連会合の概要
資料 放-32-3	<u>放送業務 WG における検討結果</u>
資料 放-32-4	<u>外国寄与文書審議表（案）一覧</u>
資料 放-32-5	<u>日本寄与文書（案）一覧</u>
資料 放-32-6	<u>ITU-R SG6 関連会合への対処方針（案）</u>
資料 放-32-7	今後のスケジュール（案）
参考資料 1	放送業務委員会構成員名簿
参考資料 2	2018 年 10 月 ITU-R SG6 会合後に承認された勧告等
参考資料 3	ITU 部会における委員会の設置及び運営について （平成 31 年 1 月 31 日情報通信審議会情報通信技術分科 会 ITU 部会決定第 5 号）

※下線部の資料は構成員及び関係者限り（紙配布）

議事概要

1. 配布資料の確認

事務局より、配布資料の確認が行われた。

2. 主査指名の紹介、主査代理の指名

事務局より、1月31日に開催された情報通信審議会情報通信技術分科会 ITU 部会（第13回）において、都竹専門委員が放送業務委員会の主査として指名されたことが紹介された。その後、都竹主査より、伊丹委員が主査代理として指名された。

3. 新任専門委員の紹介

事務局より、新たに任命された廣野専門委員（フジテレビ）について紹介が行われた。

4. 前回議事概要の確認

都竹主査より、資料 放-32-1「放送業務委員会（第31回）議事概要（案）」に基づき、放送業務委員会（第31回）の議事概要案が確認された。議事概要案について構成員からの意見はなく、案のとおり総務省 HP に掲載することとなった。

5. ITU-R SG6 関連会合への対応について

5.1. ITU-R SG6 関連会合の概要について

事務局より、資料 放-32-2「2019年3-4月 ITU-R SG6 関連会合の概要」に基づき、ITU-R SG6 関連会合について説明が行われた。

5.2. 外国寄与文書への対応案について

放送業務 WG 主任 西田専門委員より、資料 放-32-3「放送業務 WG における検討結果」及び資料 放-32-4「外国寄与文書審議表（案）一覧」に基づき、外国寄与文書の審議表案について説明が行われた。質疑の概要は次のとおり。

【6B/294 An.3 勧告 ITU-R BT.2054-1 改訂草案に向けた作業文書「移動受信のためのマルチメディア放送における多重化方式・トランスポート方式」】

伊丹主査代理：DVB-DASH は MPEG-DASH と同様のものか。

西田専門委員：DVB-DASH は、ISO/IEC で規定された MPEG-DASH の一部の機能に制約を設け、また追加機能を加えたものである。提案元が、追加機能が重要であるから追記を提案するのであれば、その旨を明確にするよう対応すべきと考えている。

【6C/390 An.7 新勧告 ITU-R BS. [RENDERER] に向けた作業文書「番組制作とモニタリングのための先進的音響システムのレンダリング手法」】

事務局：日本としてラポータグループ（RG-33）の動きは把握しているか。

西田専門委員：ラポータグループに参加しており、その中でレンダラーの仕様を一本化すべきという観点で対応している。

【6C/390 An. 8 新勧告草案 ITU-R BT. [VPL]に向けた作業文書「HDR-TVの番組映像レベルを測定するアルゴリズム」】

都竹主査：日本から何か提案するのか。

西田専門委員：ラポータグループ（RG-24）の議論において、日本で評価実験した結果、単純な画面全体の平均ではなく画面内の位置に応じた重み付けをすることで、主観評価結果との相関関係が高くなる旨入力している。

5.3. 日本寄与文書案について

西田専門委員より、資料 放-32-3「放送業務WGにおける検討結果」及び資料 放-32-5「日本寄与文書（案）一覧」に基づき、日本から提出される予定の寄与文書案について説明が行われた。質疑の概要は次のとおり。

【A1 レポート ITU-R BT. 2343-3 の改訂提案「DTT ネットワークにおける UHDTV の野外実験のコレクション」】

大谷専門委員：エリア図（Figure A1.24）に書き込まれているコンターの定義は記載されているのか。

薮 氏：Table A1.6 に記載の実験パラメータで想定されるエリアを示しているが、実験を行っていないため仮定のエリアである。

都竹主査：電界強度などの詳細なパラメータは記載していないか。

薮 氏：測定中のため、記載していない。

大谷専門委員：送信所名を記載するのみでは何を示しているかわかりづらい。

熊田氏：「Assumed coverage」と記載してはいかがか。

都竹主査：そのような記載が適切。

【A3 勧告 BT. 2036 およびレポート BT. 2209 の改訂提案「ISDB-T方式の周波数計画検討で用いる標準受信機特性」】

熊田氏：フィリピン国家電気通信委員会（NTC）は、本寄与文書を日本と共同で提出する意向を示している。

事務局：NTC に対しては、本委員会の審議において内容が認められた場合に寄与文書を提出する旨を伝えている。

【B2 レポート ITU-R BT. 2267 改訂草案の提案「IBB システム」】

都竹主査：HTML5 ベースの4方式の異なる点が表にまとめられているが、将来的にどのように利用するのか。

西田専門委員：ある方式向けに開発されたアプリケーションを他方式に移植するなどの利用を想定している。

【B3 WP6B 担当の、SG6 に付与された研究課題の見直しの提案】

都竹主査：研究課題 138/6 は廃止された上で、34-2/6 及び 130-2/6 に統合されるのか。

西田専門委員：日本提案はその意図だが、研究課題 138/6 の提案元が維持を求める場合は無理に廃止するつもりはない。

【C1 新レポート草案 ITU-R BT. [AI] への追加提案「AI の放送応用」】

西田専門委員：AI に関しては多くの事例を収集してきたが、今後何が勧告として必要となるかについては大きな課題である。

熊田氏：アナログの放送方式について、世界各国で使用されている放送方式をまとめたレポートは有用なものだった。AI においても、利用されているアプリケーションの一覧を示すことは有用であると考ええる。

【C3 WP6C 担当の、SG6 に付与された研究課題の見直しの提案】

都竹主査：提案元の反対があれば現行のままでも問題はないが、類似した研究課題をまとめ、研究が完了した研究課題を廃止した方が整理されるという認識でよいか。

西田専門委員：研究課題を整理しなくても問題はない。なお、研究課題を廃止したからといって、その分野の研究を行うべきでないことを意味するものではない。具体的に検討すべき内容はワークプランに記載されるため、細部にわたって研究課題に記載されている必要はない。

5.4. ITU-R SG6 関連会合への対処方針案について

事務局より、資料 放-32-6「ITU-R SG6 関連会合への対処方針（案）」に基づき、SG6 会合への対処方針案について説明が行われた。

6. その他

6.1. NHK 及び民放連から入力予定の寄与文書について

西田専門委員より、今般の ITU-R SG6 関連会合に NHK 及び民放連が BBC と共同で入力予定の寄与文書（勧告 ITU-R BT. 1702「テレビによって引き起こされる光感受性発作低減のための指針」を HDR-TV に対応させるための改訂案）について説明が行われた。

6.2. 今後のスケジュールについて

事務局より、資料 放-32-7「今後のスケジュール（案）」に基づき、今般の ITU-R SG6 関連会合に関する今後のスケジュールについて説明が行われた。

以上